飯田女子短期大学紀要 第35集，61-65，2018

看護倫理かるたの試み　実践・研究報告

菅沼ふじ子*・奥 井 現 理

A Report of Nursing Ethics Card Game on Nursing Education

Fujiko SUGANUMA, Genri OKUI

要旨：「看護倫理かるた」（以下，「本かるた」）は，飯田女子短期大学（以下，「短大」）の奥井現理が，看護学科一年生前期の講義「看護倫理」において使用するために開発した教材である．奥井が平成29年度から講義を担当するにあたって，「看護者の倫理綱領」の説明や，倫理学に基づいた内容の講義をする一方で，毎回20分程度のトレーニングとして本かるたを導入した．さらに，その後，菅沼が当時部長を務めていた飯田市立病院看護部の協力を得て，共同研究でこの教材をいっそうよいものにしてゆくことになった．そのために，A施設における研修において本かるたを使用する機会が設けられたのである．本稿では，短大における実践報告として本かるたの使用方法，特徴と，A施設での実践報告，そして今後の展望が述べられる．

Key words：Nursing Ethics（看護倫理），Nursing Ethics Card Game（看護倫理かるた）

はじめに

本かるたは，奥井によって，日本看護協会の「看護者の倫理綱領」全十五か条が，要約されて作成されたものである．それゆえ，かるたは全部で十五枚（絵札・読み札のそれぞれが十五枚）となる．全文でなく要約を使用したのは，全文を使用するには，一か条一か条が長いものが多く，かるたに適さないと判断したからだけでなく，骨となるものがなくては肉は付きにくい（逆にいえば，要約を覚えてしまえば，全文の理解・学習が促進されやすい）と考えたからである（図１参照）．

（例）14．看護者は，人々がよりよい健康を獲得していくために，環境の問題について社会と責任を共有する．

傍線部が「骨格」として要約され，左図のような札になっている．講義では，説明のために，看護者が「社会と環境問題の責任を共有する」ことと，「人々がよりよい健康を獲得」することには，どんな関係がありますか，という発問を行った．「例えば，使用済みの薬剤容器を，適切に処分しなくてはなりませんね」という説明を受けることで，「ああ，だから人々の健康のためなのか」と腑に落ちる経験をすることで，学生の理解が深まる，という構想になっている．

図１

2018年３月20日受付；2018年５月15日受理
*飯田市立病院看護部（前副院長兼看護部長）

本かるたのねらいは，学習者が「看護者の倫理綱領」を覚え，その精神を自分のものとすることである．私たちは計算において九九を用いるときに，いちいち考えたり思い出したりしながら計算を行うことはない．これと同様に，学習者が「看護者の倫理綱領」を自分のものとして身につけることができれば，様々な場面で応用したり自分で深く考えたりすることでその精神を体得してゆくための，一つの基礎となりうると考えたのである．

これを実現するために，まず骨格となる要約部分を覚え，それを基に全文の学習を行うことで，理解がより深まり，自分のものとして身に付けやすくなるであろう，と奥井は考えた．

実践報告１（飯田女子短期大学看護学科）

もちろん，本かるたはかるたであるから，カードゲームの特性を利用した様々な使用方法（ちらし取り，源平合戦，神経衰弱等）があると考えられる．ここでは，奥井が短大看護科講義で行っていた学習の方法，特徴，副次的な効果を説明することで，これを実践報告の１とする．

１）行われた学習の方法

①一巡目：教員が読み，学生が取る．学生は，六 - 七名のグループになっており，グループごとに一セットのかるたが配布されている．第一回，第二回の講義ではちらし取りを行ったが，学生の練度が高くなった第三回，第四回は，二グループ対抗のゲーム（いわゆる源平合戦）を行った．

②二巡目以降：グループの中で，一人の学生が読み，他の学生が取る．これはかるたであるから，取り手は，読み札が読まれている最中にも取ることができるが，その場合でも，**読み手は読み札を最後まで読む**こと，と指示されている．

これを，**グループの全員が読み手を一巡務める**まで続ける．つまり，六名グループの場合には，**全員が一巡読み，五巡取る**ことになる．

この活動を，週一回（平成29年度，奥井の担当回数は四回であった．その四回の講義に関しては奥井が一人で運営している）行った．なお，ワークシート上に，取れた札の番号をメモするように指示をしてあったため，教員は，講義後にこのワークシートを回収することによって，学生の練度を把握することができた．

２）特　徴

本かるたは，その特徴として，学習教材ではあっても学習者に面白く意欲的に取り組んでもらうために，ゲームとしての仕掛けをいくつか，盛り込んである．

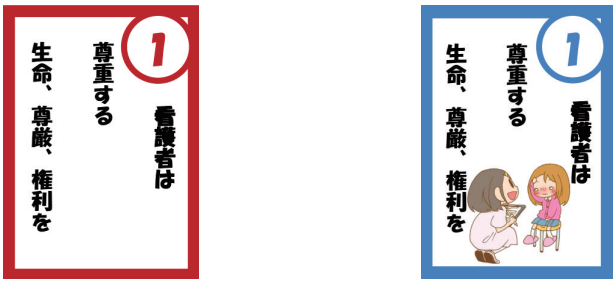
①すべての札が「看護者は」で始まる：これはもちろん，「看護者の倫理綱領」のすべての条文がそうであるため，それに倣ったものではある．しかし，このことは，かるたとしては，読み手が「看護者は」と読んだ際に，学習者の集中力が一気に高めるという効果を生むものとなる．これは，短距離走でいうところの「位置について，用意」と同様の効果をもつものと考えられる．つまり，学習者は，次の言葉がなんであるかを聞き取ろうとし，同時に，集中力をもって盤上の札を眺めることになる．短大における実践では，ゲームに勝とうとする緊張感が，結果として学習に求められる集中力を高める効果をもたらしているように思われた（図２参照）．

②「看護を提供する」が三枚，「努める」が二枚設けられている：これも，「看護者の倫理綱領」の条文に倣ったものであるが，これが，小倉百人一首の競技かるたでいうところの「三枚札」「二枚札」の役割を果たす．学習者の立場からすれば，「看護者は」「看護を提供する」（もしくは「努める」）だけではまだ取れないため，いったん緊張が緩むものの，すぐに次の言葉に集中せざるを得ない．短大における実践では，このように，緊張感

の集中と解放がリズムよく行われることで，ゲームとしての面白さが高まっているように思われた．

ところで終盤においては，他の札がすでに取られて「看護を提供する」や「努める」がもう一枚しか残っていない，という状況が起こる． 短大における実践では，そうしたときに，これらの札を取る事のできた学生は，駆け引きに勝った喜びを得て，ますますこのゲームを面白く感じているようにうかがわれた．

なお，これらの札は，同じ言葉を含んだ札が複数あることを明確に示すために，「看護を提供する」「努める」が赤色の文字で示され，絵札の絵も同じものになっているが，これは，改良の余地ありと考えられる（図３参照）．



読み札　　取り札

図２

「看護者は」のあとが「看護を提供する」になっている札は三枚ある．

「看護者は」のあとが「努める」になっている札は二枚である．

図３

3）副次的な効果

これはかならずしも開発者が当初に意図していたことではないが，かるた取りで同じグループになった学生たちは，仲間意識を高めることができたようである．これは，授業見学を行った看護学科長Tの指摘で気づかされたものである．

かるた取りなのであるから，互いに競い合う活動であるには違いないが，それでも互いにルールや節度を守らないと活動が成立しないため，協力し合うことにもなる．たしかに，そこで仲間意識が高まるということは起こり得るものと考えられる．

また，教員が読み上げる源平合戦では，グループ対抗になるため，グループ内で得意な札の担当を譲り合ったり，苦手な札の攻略法を互いに共有し合ったりと，直接に協力し合う場面がよくみられた．また，学生たちは試験前にも札を借りうけ，グループで試験前の学習を協力して行っていたのである．

実践報告２（Ａ施設）と看護職の研修に用いられる可能性

平成29年９月12日に行われたＡ施設の研修において，本かるたが用いられた．これは，菅沼およびＡ施設の研修担当部署が企画・運営した本研修は，新人看護職者に対する体系的な研修の一環であって，同日午前中の研修が，看護倫理を学ぶ場として設定されていたものである．なお，ここには奥井もオブザーバーとして参加し，また，本かるたの読み上げも担当した．

本研修の，いわば本体となるものは，講師による「看護者の倫理綱領」の条文を，具体的な例を用いて解説する講義と，グループ作業による事例を用いた条文の具体的理解を行う演習の二部構成からなっており，菅沼および研修担当部署は，本かるたを，本研修の冒頭と末尾に行うことを計画した．

この場において本かるたを用いる目的は，二点あった．一点目は，看護者の倫理綱領を学びなおすにあたって感じられる抵抗感を本かるたのもつゲーム性によって軽減することである．そして二点目は，本かるたに，いわゆるアイスブレイクの役割を果たさせることによって，学習効果を上げることであった．

第一の，抵抗感の軽減は学習に好影響を与えると予想された．なぜなら，「看護者の倫理綱領」は，学習者の立場から見れば一読して意味の分かりやすいものとは評価しにくいものであるからである．さらに，倫理を学ぶこと独自の取り組みにくさもそこには加えられるであろう．もちろん，看護者の倫理に関するものであるという性格上，平易なものがよいとは限らない．それゆえ，学習者の立場からすれば，倫理に関する平易ではない文章を読み解くという課題に，いくばくかの抵抗感を感じつつ取り組むことになる．この抵抗感を冒頭において軽減することができれば，その後の講義や演習における学習を効果の高いものとすることができるのではないかと考えられた．

第二の，アイスブレイクの役割は，大きい医療施設における新人研修独自のものといえるかもしれない．その後の演習がグループワークになる予定であったため，参加者が十分に互いを知っているとはいいにくい段階でグループ学習に臨むことになる．そこで，冒頭で本かるたにグループで取り組むことを通して緊張をとくほぐし，互いのコミュニケーションを促進する機会が設けられれば，その後のグループ学習は効率が高いものとなりうるのではないかと考えられた．

そうしたねらいで行われた冒頭のゲームは，白熱したものとはいえないものになった．参加者が遠慮がちに，また，おそらくは確信をもてずに，取り札にそっと手を伸ばす様子が多く見られたのである．

そして講義と演習ののちに，末尾にもう一度ゲームが行われた．今度は，冒頭のそれに

比して，積極的にゲームを楽しむ姿が多く見られた．これは，楽観的に見れば，冒頭のゲームにおいて本かるたがアイスブレイクの役割を十分に果たし，それにより講義とグループによる演習を通して「看護者の倫理綱領」への理解が深まったため，本かるたをグループで楽しむようになった，ということかもしれない．逆に，悲観的に見れば，冒頭のゲームは参加者に何の好影響も与えることができず，講義とグループ演習が，末尾のゲームを楽しむすべての要因を形成したということかもしれない．もちろん，いずれの見方がより真相に近いかは，今後の実践・研究を重ねることによってしか判明させることはできないであろう．ただ，前者の見方にいくばくかでも可能性があると考えられるうちは，今後の実践・研究を行う価値があるものと考えられる．

今後の展望

本かるたの学習効果は高いものである可能性があるように思われるため，今後，さらに改良を行ってゆきたいと考えている．まず，短大の看護科教員，そして菅沼はじめA施設の研修担当部署の指導を受けて奥井が，要約等の，より一層の精度向上や適正化を行うという形で共同研究を進め，本かるたの学習効果を高めたいと考える．同時に，要約したことにより起こりうる弊害を可能なかぎりなくす工夫をしたい．

要約によって起こりうる弊害は，けっして看過されるべきではないであろう．目下のところ考えられる弊害は，学習者の知識が要約されたものだけにとどまり，いわば省略された部分に関しては学習されないままになってしまう可能性がある，ということである．もちろん，開発者としては，要約を十分に理解・記憶することによって全体の理解が深まるようにするという構想をもっているため，そのような弊害を起こすことを避けたいと考えている．それゆえ，現在のところは，短大における講義やA施設における研修でそうしたように，かならず全文を学習する機会と組み合わせる，という方法を採るべきであろう．しかしながら，この方法が必ず功を奏し弊害を十分に避けることができるという，よりたしかな根拠を得られる段階に至っているとはいいがたい．これは，今後の大きな課題となるものといえよう．

謝　辞

本稿にも数枚掲載されている絵札のイラストは，石川県の「石川ナースナビ（https://ishikawa-nursenavi.com/）」というWEBサイトでフリー配布されているものです．本稿の投稿にあたって，研究紀要というかたちでイラストが再配布されるということにあたりうるため，利用の可否をお尋ねしたところ，こころよくご承諾頂きました．この場をお借りして，「石川ナースナビ」運営ご担当者さまおよび作画者さまにこころより御礼申し上げます．

参 考 文 献

ここには，開発者が本かるたを開発するにあたって参照したもの，本かるたを用いて授業を行う際に看護倫理の資料として参考としたものを記してある．

1．日本看護協会．“看護者の倫理綱領”．2003．＜https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/rinri.html＞
2．東京医科大学看護専門学校：よくわかる看護者の倫理綱領，照林社，東京，2006.
3．医療人権を考える会：『看護者の倫理綱領』で読み解くベッドサイドの看護倫理事例30，日本看護協会出版会，東京，2007.
4．吉田みつ子：看護倫理　見ているものが違うから起こること，医学書院，東京，2013.